

広報

Ako City
Public
Relations



千種川河口付近からドローンにより撮影した、西浜工業団地

'21
財政特集号
令和2年度
決算
令和3年11月10日発行



広報の取材や、市政PR動画の撮影の中で見つけた赤穂市の美しい風景などを集めて掲載しています。

広報あこう '21財政特集号 目次

令和2年度決算のあらまし	……p 3～9
1 一般会計決算 2 財政分析 3 市債 4 基金 5 債務負担行為の状況	
病院事業の決算	……p 10～11
上下水道事業の決算	……p 12～13
介護老人保健施設事業の決算	……p 14
令和3年度予算上半期の状況	……p 15
写真でみる決算	……p 16

令和2年度 赤穂市の決算状況について

令和2年度は、厳しい財政環境の中、人口減少社会においても特色ある地方創生への取組を総合的に推進するため、個々の事務事業における緊急性、必要性、費用対効果の検討、選択と集中及びその検証を行い、財源の充実確保と行財政の健全運営に配慮しながら、市民福祉の増進に努め、誰もが希望と誇りをもって住み続けたいと思えるまちづくりを推進しました。

令和2年度の市の財政状況は、歳入において、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に伴う国庫支出金の大幅な増加に加え、地方交付税、地方消費税交付金や赤穂ふるさとづくり寄付金の増加などから、歳入総額は増となりました。

一方、歳出は、小・中学校の空調設備整備事業の完了等に伴い投資的経費が減少したものの、特別定額給付金給付事業をはじめとした新型コロナウイルス感染症に対応する経費の増加などにより、歳出総額は増となりました。

また、財政構造の健全化を図るため、経費の一層の節減合理化を行うなど、簡素でより効率的な行財政運営に努めるとともに、「第8次赤穂市行政改革大綱」に基づき、中長期的な視点に立った取組を行いました。



各会計別決算状況

(1万円未満四捨五入)

会計区分	歳入			歳出			
	2年度	元年度	伸び率%	2年度	元年度	伸び率%	
一般会計	263億 268万円	212億 1,854万円	24.0	259億 1,934万円	211億 2,070万円	22.7	
特別会計	国民健康保険事業	51億 5,968万円	54億 1,886万円	△ 4.8	51億 243万円	53億 2,896万円	△ 4.3
	職員退職手当管理	3億 8,996万円	4億 3,899万円	△ 11.2	3億 8,996万円	4億 3,898万円	△ 11.2
	墓地公園整備事業	663万円	457万円	45.1	643万円	457万円	40.7
	介護保険	44億 7,025万円	44億 2,965万円	0.9	44億 3,983万円	43億 2,927万円	2.6
	駐車場事業	1億 2,646万円	1億 2,857万円	△ 1.6	1億 2,646万円	1億 2,857万円	△ 1.6
	後期高齢者医療保険	8億 357万円	7億 5,935万円	5.8	7億 8,736万円	7億 4,344万円	5.9
	小計	109億 5,655万円	111億 7,999万円	△ 2.0	108億 5,247万円	109億 7,379万円	△ 1.1
企業会計	病院事業	90億 7,568万円	92億 6,641万円	△ 2.1	106億 2,316万円	102億 3,622万円	3.8
	介護老人保健施設事業	3億 8,348万円	3億 2,608万円	17.6	4億 1,678万円	3億 5,523万円	17.3
	水道事業	15億 3,233万円	15億 8,074万円	△ 3.1	17億 7,300万円	18億 6,333万円	△ 4.8
	下水道事業	42億 6,380万円	47億 1,773万円	△ 9.6	47億 4,784万円	50億 3,788万円	△ 5.8
	小計	152億 5,529万円	158億 9,096万円	△ 4.0	175億 6,078万円	174億 9,266万円	0.4
合計	525億 1,452万円	482億 8,949万円	8.7	543億 3,259万円	495億 8,715万円	9.6	

(注：企業会計には消費税額を含む)

令和2年度市民 1人当たりの決算額 **1,169,826円**

※令和3年3月31日現在の住民基本台帳人口46,445人で計算したものです

一般会計 **558,065円**

特別会計・企業会計 **611,761円**



1 一般会計決算



市の会計の中心をなす一般会計の決算収支は、歳入が263億268万円、歳出が259億1,934万円で、歳入・歳出の差引き額から翌年度に繰り越すこととなった財源を差し引いた実質収支は2億8,755万円となりました。

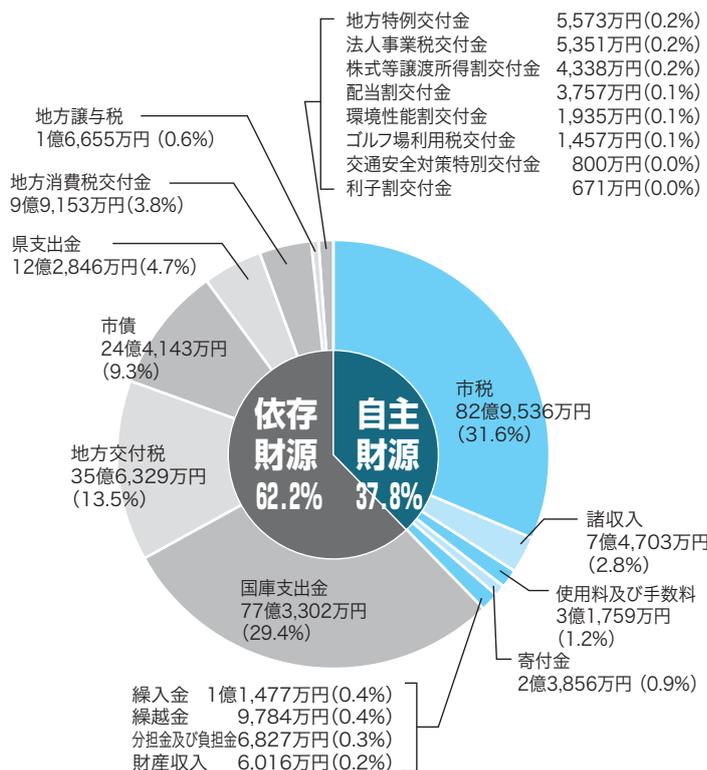
歳入決算は、前年度と比べ24.0%の増加となりました。主な特徴は、特別定額給付金給付事業補助金の増などにより国庫支出金が245.2%の増、普通交付税の増などにより地方交付税が9.2%の増となっています。

市税など市が自身で収入することができる財源(自主財源)の歳入全体に占める割合は、前年度比11.0ポイント減少して37.8%となっています。この割合が高いほど多様な行政サービスを提供していくうえで、より自主的かつ安定した事業を展開することができます。

歳入総額

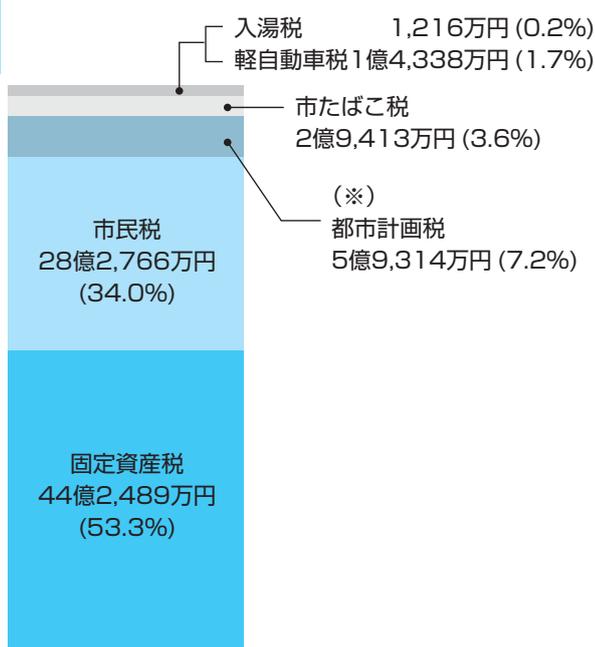
263億268万円

自主財源 **99億3,958万円** (37.8%)
 依存財源 **163億6,310万円** (62.2%)



市税の内訳

総額 **82億9,536万円**



(※) 土地区画整理事業、公園施設整備事業など、市街化区域内における事業の財源となっています。

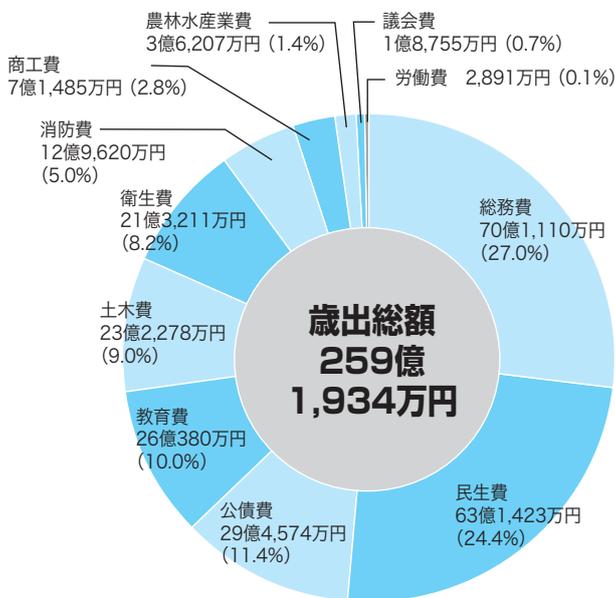




歳出決算は、前年度より22.7%の増加となりました。
 主な特徴は、特別定額給付金給付事業の増などにより総務費が252.1%の増、救助工作車の消防施設整備事業の増などにより消防費が20.9%の増となっています。
 道路や公園等の建設事業に要する投資的経費は、30.5%の減となりました。人件費、公債費、扶助費といった義務的経費の歳出総額に占める割合は41.2%となっています。

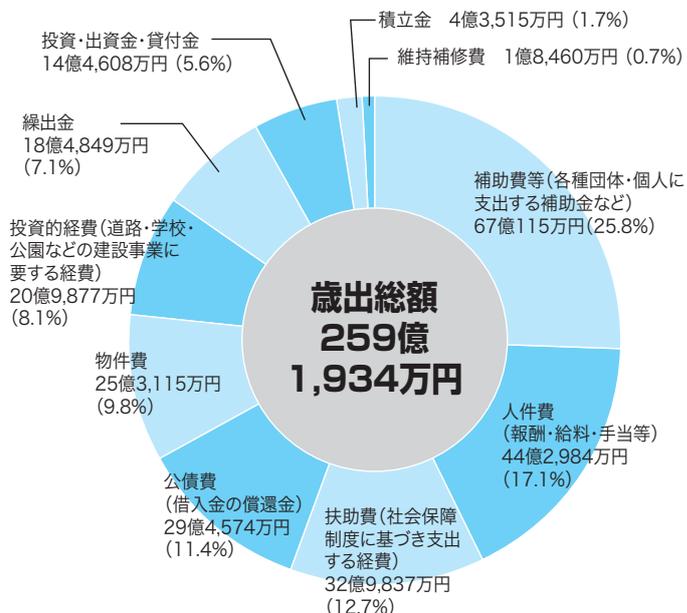
目的別内訳

各行政目的別、つまり各部局ごとの仕事の内容によって分類され、これにより各部課ごとの経費の比重を知ることができます。

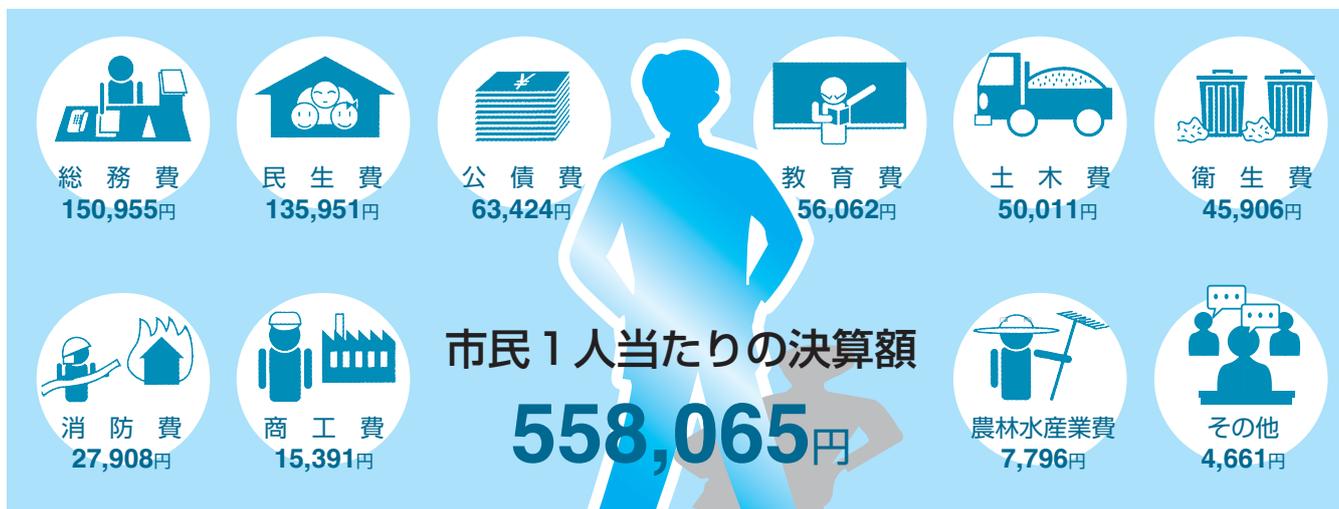


性質別内訳

経済的性質を基準として分類され、これにより経費の構造や財政体質を知ることができます。



市民1人当たりの決算額 (目的別)



2 財政分析

市の財政の状態を分析するうえで用いられる指数及び比率には、次のようなものがあります。

① 財政力指数(3カ年平均)

地方公共団体の財政力を示す指数として用いられ、1を超えるほど財源に余裕があるとされています。

	2年度 (H30～R2)	元年度 (H29～R1)
赤穂市	0.708	0.719
県平均	0.747	0.747
県内市平均(神戸市除く)	0.751	0.751

③ 市債・基金1人当たり現在高(普通会計ベース)

家庭では、家を建てる時や車を買うときに借り入れる「ローン」にあたる「市債現在高」と「貯金」にあたる「基金現在高」を人口1人当たりで直すと以下のとおりです。

	市債現在高(借金)	基金現在高(貯金)
赤穂市	646,162円	80,913円
県内市平均	516,447円	82,732円

※県内市平均は、令和3年1月1日現在の住民基本台帳人口で計算しています。

② 経常収支比率(普通会計ベース)

人件費や公債費など、経常的に支出しなければならない経費に充てられた一般財源の経常一般財源(毎年経常的に収入され、用途を特定されないお金)総額に対する割合を、経常収支比率といいます。

この比率が高いほど自由に使えるお金の割合が少なく、道路や公園の整備をはじめ、市民の新しいニーズに応じていく余力がなくなっていることを意味します。

	2年度	元年度
赤穂市	81.3	84.8
県平均	94.8	95.2
県内市平均(神戸市除く)	93.2	93.7



財政健全化判断比率

1 実質赤字比率

標準財政規模(市税などの一般財源の標準規模)等に対する、実質赤字額の比率です。

2 連結実質赤字比率

公営企業会計を含む全会計の赤字や黒字を合算し、市全体としての赤字の程度を示します。

3 実質公債費比率(3カ年平均)

標準財政規模等に対する、市が借り入れた借金(市債)の返済費用である公債費や、病院事業・下水道事業などの公営企業会計に対して公債費の補てんのために支出した額(繰出金)の合計額の割合を表す指標で、市の実質的な借入金の負担比率を示します。18%を超えると市債の発行にあたり県の許可が必要になりますが、令和2年度決算においては10.4%となり、前年度と同率となっています。

4 将来負担比率

病院事業・水道事業などを含め、市として将来負担すべき実質的な負債総額の標準財政規模を基本とした額に対する比率です。

一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の、現時点での残高を指標化しており、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示すもので、比率が低いほど財政状態が良いことを表します。

区分	1 実質赤字比率	2 連結実質赤字比率	3 実質公債費比率	4 将来負担比率
赤穂市	—	—	10.4	110.9
県平均			5.9	37.1
県内市平均(神戸市除く)			6.6	25.8
早期健全化基準	12.97	17.97	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

実質赤字額及び連結実質赤字額がない場合は、「—」と記載しています。

3 市 債

住みよいまちづくりを進めるために、道路や公園などの生活環境施設や、学校などの教育施設を積極的に整備していますが、単年度の市税等だけでは、これらの財源をまかないきれません。

また、これらの事業効果は後年度にも及ぶものであり、後年度の世代との負担を均等にすることから、必要な財源の一部を市債として借り入れ、後年度に市税等で償還（返済）しています。

■市債の状況

区 分	元年度末 現 在 高	2年度中増減		2年度末 現 在 高
		市債借入額	元金償還額	
一 般 会 計	303億9,559万円	24億4,143万円	28億2,648万円	300億1,054万円
駐 車 場 事 業 特 別 会 計	1億1,336万円		1億1,336万円	
合 計	305億 895万円	24億4,143万円	29億3,984万円	300億1,054万円

4 基 金

事業の推進、財源調達のために必要な資金を積立てて運用する基金等の状況は、次表のとおりです。

■基金内訳(一般会計+特別会計)

基 金 名	2年度末現在高	
1 財 政 調 整 基 金	15億2,714万円	
2 市 債 管 理 基 金	3億5,180万円	
3 その他特定目的基金	26億 740万円	
主 な も の	(健康管理施設整備基金)	5億2,164万円
	(都市施設等整備事業基金)	2億8,836万円
	(赤穂ふるさとづくり基金)	2億8,883万円
合 計	44億8,634万円	

内 訳	現 金	40億8,298万円
	貸 付 金	4億円
	有価証券	336万円

5 債務負担行為の状況

債務負担行為とは、後年度において支出の義務を負う行為、例えば数年度にわたる工事を一括して契約することです。令和2年度末の状況は、次表のとおりです。

■債務負担行為の状況

事 業 名	債務負担行為 限度額	期 間	3年度以降 支出予定額
福浦地区コミュニティ・センター指定管理料	231万円	令3～令5	231万円
総合福祉会館等施設指定管理料	3,500万円	令3～令5	3,500万円
農村多目的共同利用施設指定管理料	339万円	令3～令5	339万円
土地改良事業補助(団体営)(令和元年度設定)	1,372万円	令元～令5	151万円
土地改良事業補助(団体営)(令和2年度設定)	634万円	令2～令6	634万円
土地改良事業補助(団体営)(令和3年度設定)	2,348万円	令3～令7	2,348万円
土地改良施設維持管理適正化事業	34万円	令3～令5	34万円
坂越漁港小型船舶係留施設指定管理料	49万円	令3～令5	49万円
御崎レストハウス指定管理料	1,752万円	令3～令5	1,752万円
まちづくり会館指定管理料	476万円	令3～令5	476万円
都市公園指定管理料	1億5,246万円	令3～令5	1億5,246万円
元禄スポーツセンター等指定管理料	3,060万円	令3～令5	3,060万円
民俗資料館指定管理料	1,936万円	令3～令5	1,936万円
歴史博物館指定管理料	4,102万円	令3～令5	4,102万円
海洋科学館指定管理料	3,208万円	令3～令5	3,208万円
文化会館指定管理料	1億4,864万円	令3～令5	1億4,864万円
美術工芸館指定管理料	2,884万円	令3～令5	2,884万円
野外活動センター指定管理料	1,920万円	令3～令5	1,920万円

貸借対照表や行政コスト計算書などの財務書類につきましては、総務省より示された「統一的な基準」に基づき現在作成中です。年度末を目途にホームページで公表する予定です。

赤穂市の家計簿 ～一般会計決算を家計に例えると～

市の決算額は250億円を超える大きな額のため、このままでは実感がわきにくいものです。そこで、市の財政状況を年収500万円の家計に置き換えて表してみました。

【収入】

赤穂市の一般会計決算（令和2年度決算）			赤穂市の家計簿		
			収入項目	年間収入	1ヵ月の収入
自主財源	市税、使用料手数料など	98億2,481万円	給料・ボーナス	500万円	42万円
	繰入金	1億1,477万円	貯金の取崩し	6万円	1万円
依存財源	国県支出金 地方交付税など (※特別定額給付金給付事業補助金を除く)	91億9,820万円	親からの援助、児童手当など	468万円	39万円
	市債	24億4,143万円	借金	124万円	10万円
収入合計 (※特別定額給付金給付事業補助金を除く)		215億7,921万円	収入合計	1,098万円	92万円

【支出】

赤穂市の一般会計決算（令和2年度決算）			赤穂市の家計簿		
			支出項目	年間支出	1ヵ月の支出
人件費 (※特別定額給付金給付事業を除く)	44億2,503万円	生活費（食費）	225万円	19万円	
扶助費	32億9,837万円	医療費、保育料など	168万円	14万円	
公債費	29億4,574万円	ローンの返済	150万円	13万円	
物件費、補助費等、投資及び出資金、貸付金など (※特別定額給付金給付事業を除く)	61億4,432万円	光熱水費、電話代、被服費、寄付金、冠婚葬祭費、交際費など	313万円	25万円	
繰出金	18億4,849万円	子どもへの仕送り	94万円	8万円	
積立金	4億3,515万円	貯金	22万円	2万円	
投資的経費	20億9,877万円	自宅のリフォーム、自家用車購入など	107万円	9万円	
支出合計 (※特別定額給付金給付事業を除く)	211億9,587万円	支出合計	1,079万円	90万円	

★市債残高 300億1,054万円

★ローン残高 1,527万円（前年度1,537万円）

※特別定額給付金給付事業

新型コロナウイルス感染症緊急経済対策による家計への支援として、全市民を対象に1人あたり10万円を世帯主に給付。(財源は全額国支出金)

事業費：47億2,347万円



病院事業の決算

赤穂市民病院
AKO CITY HOSPITAL

問い合わせ先
市民病院財務課 ☎43・6421
Fax 43・0351

業務の状況

令和2年度の延利用患者数は入院87,954人、外来152,238人でした。

一日平均患者数は入院241人、外来627人で、医師、看護師など総勢436人の職員で医療活動を行いました。

令和2年度は、前年度に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大に対し、院内感染防止及び救急医療を含む一般診療の維持を最重要課題として、発熱トリアージを行うなど利用患者並びに職員の感染防止に取り組んできました。しかしながら、患者自身が感染することへの配慮から外来受診を控えたり、緊急を要しない予定入院や手術を先送りしたりするなど新型コロナウイルス感染症が要因と考えられる患者数の減少が見られました。医療機器については、調剤支援システムなどの整備を行いました。

経理の状況

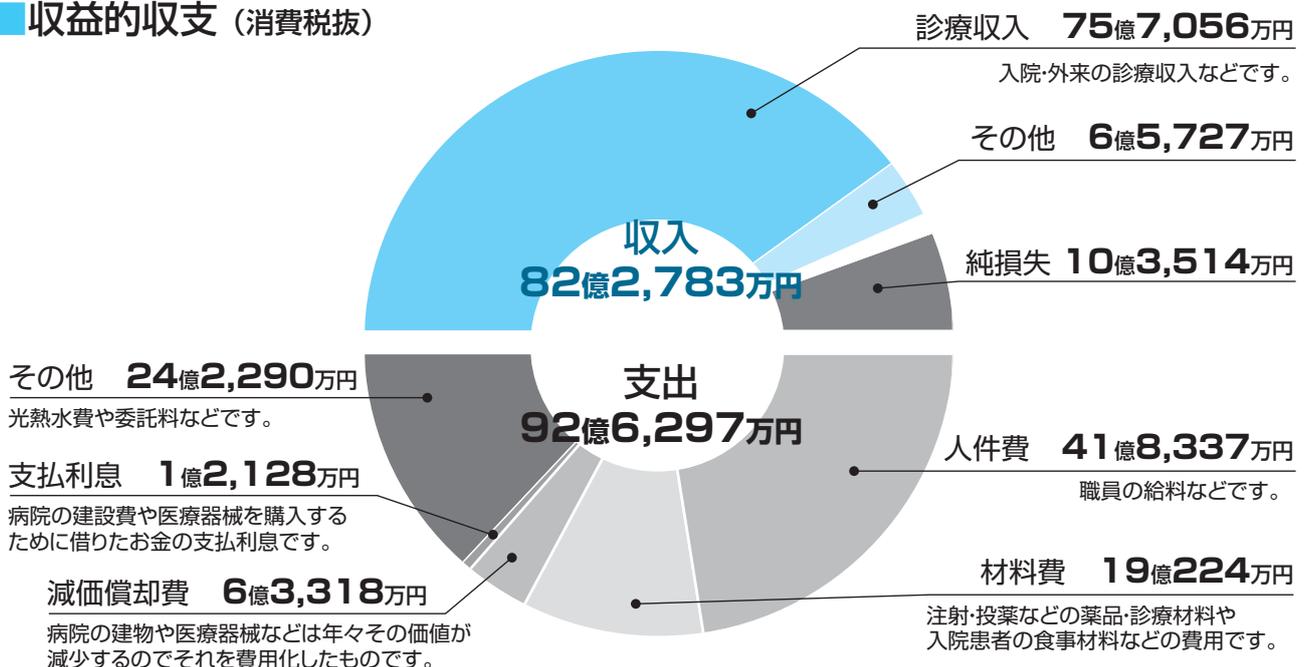
経営状況を表す収益的収支については、総収益8億2,783万円、総費用92億6,297万円となり、10億3,514万円の赤字となりました。

資本的収支は、企業債などの収入8億1,834万円に対し、医療機器整備や企業債償還などの支出14億1,912万円となり、差額6億78万円については、一時借入金で措置しました。

今後の病院運営

今後の病院運営については、新型コロナウイルス感染症による院内感染防止に万全の対策を講じた上で、近隣医療機関との連携や救急患者の受け入れ強化など更なる集患に努め、収益の向上を図るとともに一層の経費削減に取り組んでまいります。また、新型コロナウイルス感染症については、公立病院としての使命と責任を十分に認識し、赤穂市民はもとより西播磨地域住民の命の砦として、適切に対応してまいります。

収益的収支（消費税抜）



■患者利用の状況

1. 診療科別1日平均患者数

【病院】

(単位：人)

区分	内科	呼吸器科	消化器内科	循環器科	小児科	外科	産婦人科
入院	40.4	0.0	48.3	52.8	0.5	17.5	0.0
外来	133.6	16.6	89.8	73.4	18.0	36.0	14.4
区分	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	整形外科	泌尿器科	放射線科	脳神経外科
入院	0.4	1.5	0.7	50.7	8.4	0.0	17.7
外来	20.3	21.7	25.2	64.1	36.2	13.0	19.7
区分	麻酔科	形成外科	心療内科	精神科	歯科口腔外科	計	
入院	0.2	0.0	0.0	0.0	1.9	241.0	
外来	7.3	7.5	13.5	0.0	16.2	626.5	

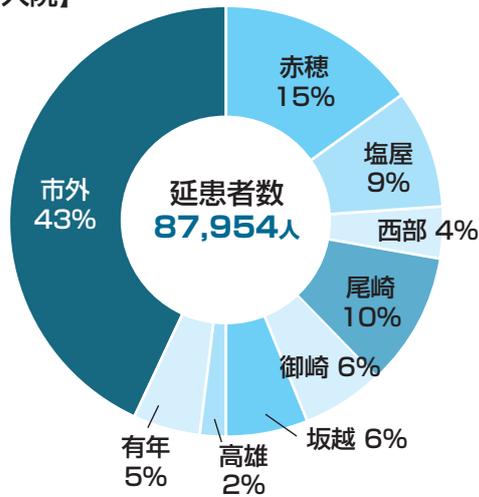
【診療所】

(単位：人)

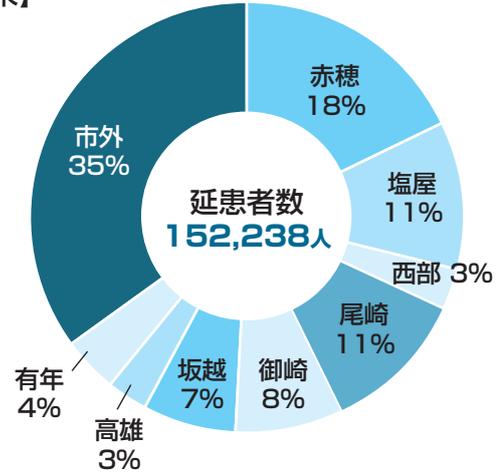
区分	高雄	福浦	有年	合計
外来	5.1	8.0	18.6	31.7

2. 地区別患者比率

【入院】

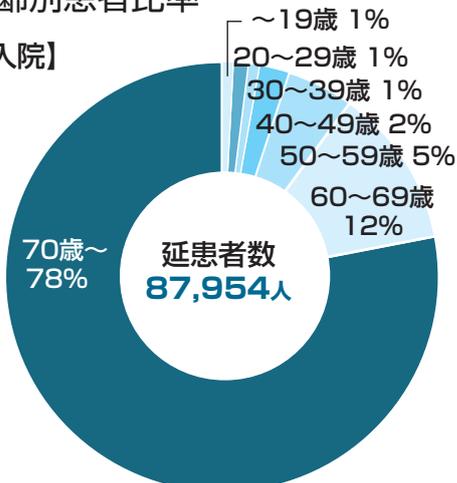


【外来】

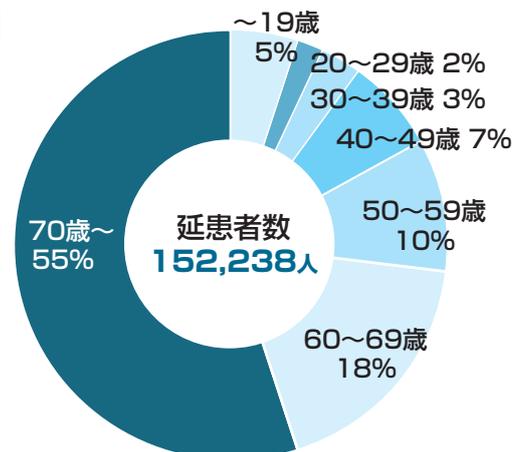


3. 年齢別患者比率

【入院】



【外来】



上下水道事業の 決算

問い合わせ先

上下水道部総務課 ☎43・6888

Fax 43・6872

業務の状況

【水道事業】

令和2年度の給水状況は、給水人口が46,445人（普及率100%）、給水件数が22,773件、総給水量は11,297千 m^3 となりました。総配水量に占める有収率は93.6%で、給水原価は78.6円/ m^3 、供給単価は57.7円/ m^3 となりました。また、北野中浄水場の地下水紫外線処理設備工事を実施するなど水道施設の整備を行うとともに、老朽化した水道管の改良工事などを行いました。

【下水道事業】

令和2年度の汚水処理状況は、水洗化人口が45,490人（水洗化普及率97.9%）、処理件数が128,988件、有収水量は5,552千 m^3 となりました。総処理水量に占める有収率は83.3%で、汚水処理原価は183.7円/ m^3 、使用料単価は143.0円/ m^3 となりました。また、土地区画整理事業に伴う污水管渠・雨水渠築造工事、坂越ポンプ場の整備を行いました。

経理の状況

【水道事業】

経営の状況を表す収益的収支は、総収益が8億8,190万円、総費用が9億38万円で、1,848万円の純損失となりました。

また、施設の建設改良などを表す資本的収支は、企業債などの収入5億8,002万円に対し、改良工事などの支出が8億2,963万円となり、その不足額2億4,961万円は、内部留保資金で補てんしました。

【下水道事業】

収益的収支は、総収益が17億9,524万円、総費用が20億7,624万円で、2億8,100万円の純損失となりました。

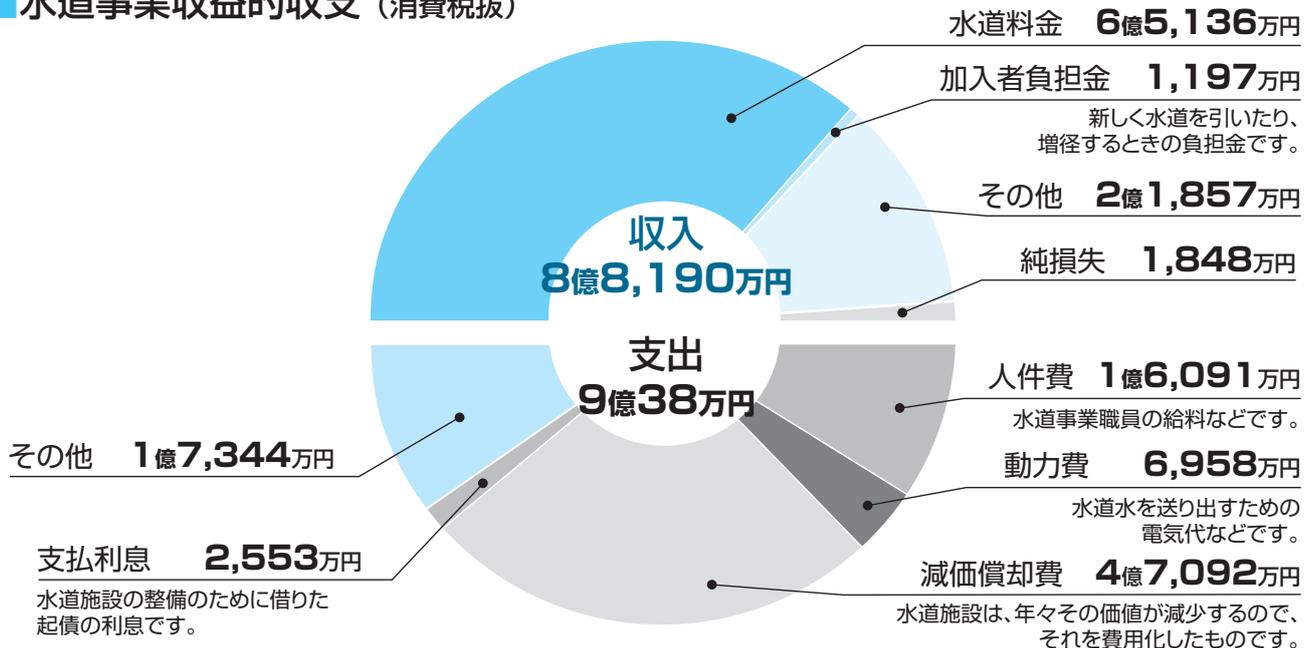
また、資本的収支は、企業債などの収入23億8,920万円に対し、整備工事などの支出が26億3,016万円となり、その不足額2億4,096万円は、当年度分損益勘定留保資金などで補てんしました。

今後の上下水道事業経営

人口減少の加速、節水機器の普及などによる水需要の減少傾向が続くことが予想され、水道料金及び下水道使用料収入の伸びは期待できない状況です。一方で、今後は老朽化した施設や管の更新、耐震化による費用の増加が確実であり、経営状況は非常に厳しくなります。

安全でおいしい水の安定的な供給と、衛生的な生活環境の保全のため、事業の見直し等により経営基盤の安定・強化を図り、健全な事業運営に努めてまいります。

■ 水道事業収益的収支（消費税抜）



給水栓水質測定結果 (令和2年度平均値)

「<」は定量限界未満

項目	検査項目	基準値等	北部水源系給水栓	南部水源系給水栓	備考
1	一般細菌	100個/ml以下	0	0	
2	大腸菌	検出されないこと	不検出	不検出	病原微生物
3	カドミウム及びその化合物	0.003mg/l以下	<0.0003	<0.0003	
4	水銀及びその化合物	0.0005mg/l以下	<0.00005	<0.00005	
5	セレン及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	重金属
6	鉛及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
7	ヒ素及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
8	六価クロム化合物	0.02mg/l以下	<0.002	<0.002	
9	亜硝酸態窒素	0.04mg/l以下	<0.004	<0.004	
10	シアン化物イオン及び塩化シアン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	1.0mg/l以下	1.48	0.73	無機物
12	フッ素及びその化合物	0.8mg/l以下	0.12	0.11	
13	ホウ素及びその化合物	1.0mg/l以下	0.02	0.01	
14	四塩化炭素	0.002mg/l以下	<0.0002	<0.0002	
15	1,4-ジオキサン	0.05mg/l以下	<0.005	<0.005	
16	ビス-2-ジクロロエチル及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下	<0.001	<0.001	有機物
17	ジクロロメタン	0.02mg/l以下	<0.001	<0.001	
18	テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
19	トリクロロエチレン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
20	ベンゼン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
21	塩素酸	0.6mg/l以下	<0.06	<0.06	
22	クロロ酢酸	0.02mg/l以下	<0.002	<0.002	
23	クロロホルム	0.06mg/l以下	<0.001	0.001	
24	ジクロロ酢酸	0.03mg/l以下	<0.003	<0.003	
25	ジブロモクロロメタン	0.1mg/l以下	0.001	0.002	
26	臭素酸	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	消毒副生成物
27	総トリハロメタン	0.1mg/l以下	0.003	0.006	
28	トリクロロ酢酸	0.03mg/l以下	<0.003	<0.003	
29	ブロモジクロロメタン	0.03mg/l以下	<0.001	0.002	
30	ブロモホルム	0.09mg/l以下	0.002	<0.001	
31	ホルムアルデヒド	0.08mg/l以下	<0.008	<0.008	
32	亜鉛及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.01	<0.01	
33	アルミニウム及びその化合物	0.2mg/l以下	0.01	0.03	着色
34	鉄及びその化合物	0.3mg/l以下	<0.01	<0.01	
35	銅及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.01	<0.01	
36	ナトリウム及びその化合物	200mg/l以下	9.3	7.5	味
37	マンガン及びその化合物	0.05mg/l以下	<0.005	<0.005	着色
38	塩化物イオン	200mg/l以下	11.0	6.9	
39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/l以下	70.0	51.4	味
40	蒸発残留物	500mg/l以下	124	95	
41	陰イオン界面活性剤	0.2mg/l以下	<0.02	<0.02	発泡
42	ジェオスミン	0.00001mg/l以下	<0.000001	<0.000001	カビ臭
43	2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/l以下	<0.000001	<0.000001	
44	非イオン界面活性剤	0.02mg/l以下	<0.005	<0.005	発泡
45	フェノール類	0.005mg/l以下	<0.0005	<0.0005	臭気
46	有機物(全有機炭素)	3mg/l以下	0.3	0.4	味
47	pH値	5.8以上8.6以下	7.20	7.20	
48	味	異常でないこと	異常なし	異常なし	
49	臭気	異常でないこと	異常なし	異常なし	基礎的性状
50	色度	5度以下	<0.5	<0.5	
51	濁度	2度以下	<0.1	<0.1	

北部水源系給水栓：有年地区(採水場所：西有年、有年原地区) / 南部水源系給水栓：有年地区以外(採水場所：周世、坂越、福浦、御崎地区)

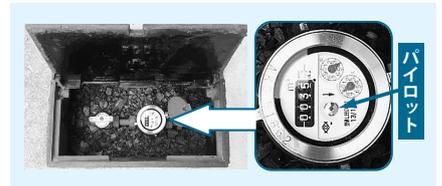
190項目の検査で 安全な水を安定的に

令和2年度の水質検査の結果は、左のとおりで、すべて水質基準値を満たしています。また、これら水質基準項目(51項目)に加え、目標設定項目26項目(うち1項目は農薬114項目)の検査を随時行い、より安全で良質な水を安定的に供給しています。

漏水にご注意を

水道の使用水量が前回と比べて急に多くなった場合は、漏水をしていることが考えられます。

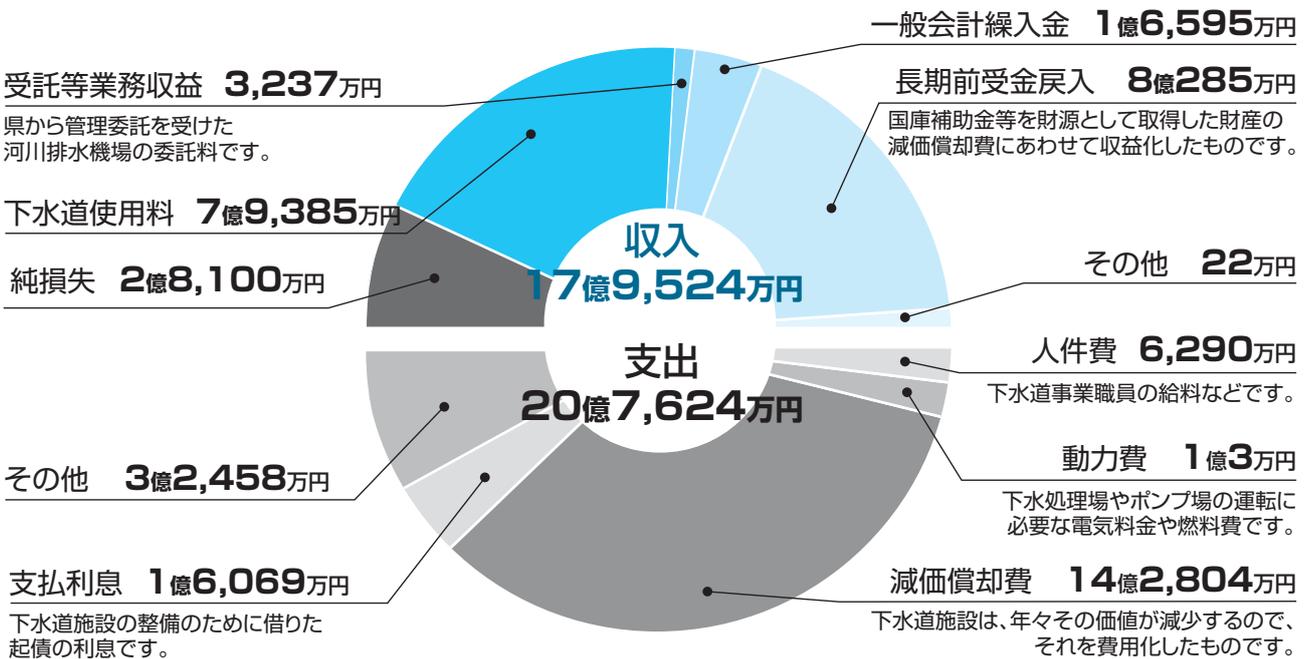
家屋内の蛇口等を全部閉めてもメーターのパイロットが回っているようでしたら、漏水の可能性にあります。すみやかに赤穂市指定給水装置工事業者に依頼して修理してください。



ダイオキシン類測定分析結果

測定箇所	測定結果	試料採取日	基準値
赤穂下水管理センター放流水	0.000045pg-TEQ/L	R2.7.27	10pg-TEQ/L
	1.7pg-TEQ/L	R3.1.27	

下水道事業収益的収支(消費税抜)



介護老人保健 施設事業の決算

問い合わせ先
介護老人保健施設 ☎42・1005
Fax 42・0972

業務の状況

令和2年度の入所利用者は、長期利用者が582人、短期利用者が210人減少したため、前年度より792人減少しました。通所利用者は、前年度より282人増加しました。

結果として、令和2年度の入所利用者数は延15,714人(一日平均43.1人)、通所利用者数は延6,291人(一日平均26.0人)となりました。

経理の状況

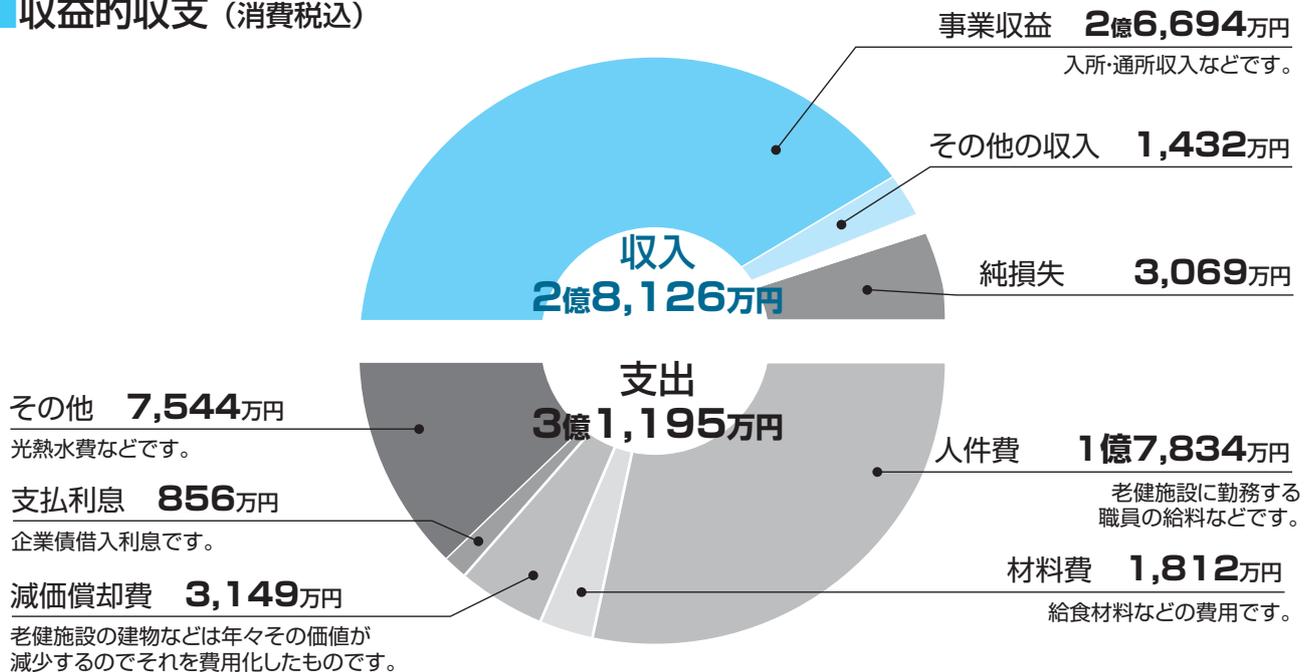
経営状況を表す収益的収支については、総収益2億8,126万円、総費用3億1,195万円となり、3,069万円の純損失となりました。

資本的収支は、収入総額1億221万円、支出総額1億482万円となり、差引不足額261万円は内部留保資金で補てんしました。

今後の老健施設運営

介護老人保健施設の目的である「在宅復帰・在宅療養支援」の機能を果たすため、利用者一人ひとりの目標に沿ったサービスの提供と質の向上に努め、利用効率を高めるとともに、施設従事者の体制確保や経費の見直し等経営の改善に取り組んでまいります。

収益的収支 (消費税込)



利用者の状況

(単位：人)

区分		延利用者数	1日平均利用者数
入所	長期	14,478	39.7
	短期	1,236	3.4
計		15,714	43.1
通所		6,291	26.0

令和3年度予算 上半期の状況

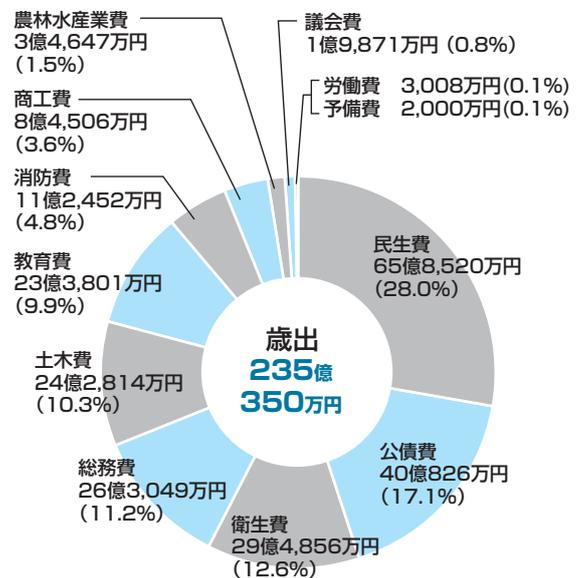
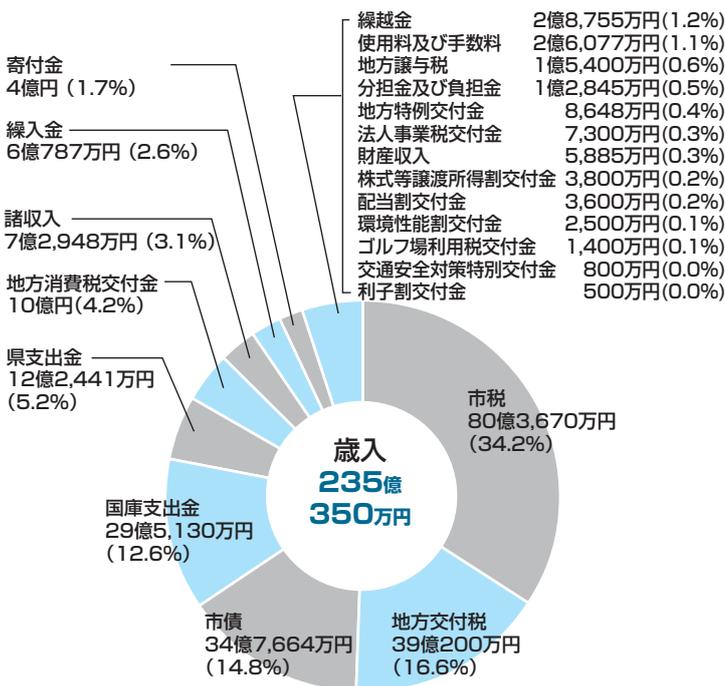
9月補正予算までに、一般会計において新型コロナウイルスワクチン接種事業に3億5,180万円、あこう地域応援商品券事業に1億9,700万円などを計上しました。これにより特別会計、企業会計を合わせた9月補正後の令和3年度予算総額は、当初より12億4,350万円増加し、547億5,667万円となっています。



各会計別予算状況

会計区分	令和3年度 当初予算額	9月補正まで	令和3年度 現計予算額
一般会計	222億6,000万円	12億4,350万円	235億 350万円
特別会計	国民健康保険事業	51億7,000万円	51億7,000万円
	職員退職手当管理	4億 200万円	4億 200万円
	墓地公園整備事業	760万円	760万円
	介護保険	45億 670万円	45億 670万円
	後期高齢者医療保険	8億 180万円	8億 180万円
	小計	108億8,810万円	
企業会計	病院事業	125億1,593万円	125億1,593万円
	介護老人保健施設事業	3億9,109万円	3億9,109万円
	水道事業	18億8,693万円	18億8,693万円
	下水道事業	55億7,112万円	55億7,112万円
	小計	203億6,507万円	
合計	535億1,317万円	12億4,350万円	547億5,667万円

一般会計予算の内訳 (9月補正後)





写真で見る決算

総合計画推進事業



事業費1,475万円

一般財源
746万円

人口減少・少子高齢化問題などをはじめとした様々な課題に対応するために、令和3年度からの10年間で取り組むべき、まちづくりの方向性を示す「2030赤穂市総合計画」を策定しました。

県支出金
729万円

観光マーケティング推進事業



事業費3,908万円

一般財源ほか
1,954万円

国の地方創生推進交付金を活用し、赤穂市がもつ多彩な観光資源を有効に活用するために、DMOの設立準備やICT活用による情報発信など、マーケティングに基づいた戦略的な観光施策を実施しました。

国庫支出金
1,954万円

福祉のまちづくり推進事業



事業費5,740万円

一般財源
580万円

地方債
5,160万円

多くの市民が利用する尾崎公民館のエレベーター設置工事に着手し、高齢者や障がい者の利用に配慮した施設整備を推進しました。

日本遺産推進事業



事業費831万円

一般財源ほか
426万円

令和元年5月に「[[日本第一]]の塩を産したまち播州赤穂」のストーリーが日本遺産に認定されたことを受け、平成30年度に認定された北前船とともに、二つの日本遺産を地域資源として地域活性化や観光振興に有効活用しました。

県支出金
405万円

地域文化財調査事業



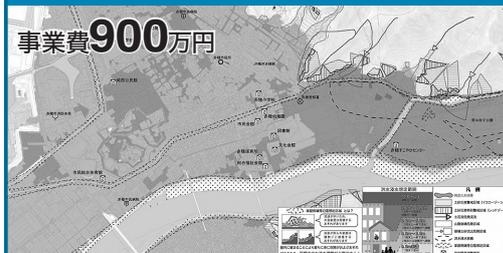
事業費334万円

一般財源ほか
184万円

赤穂城跡の魅力を国内外に広くPRするため、多言語による解説ビデオを制作するなど、文化財の積極的な公開と活用、情報発信に努めました。

国庫支出金
150万円

防災ハザードマップ作成事業



事業費900万円

一般財源ほか
604万円

県による各種災害の被害想定の見直しを受け、小学校区ごとに作成しているハザードマップを改定しました。全戸配布することによって、危険区域の周知を図り、避難行動に役立てています。

国庫支出金
296万円

予防接種費助成事業



事業費779万円

一般財源
779万円

子どものインフルエンザ予防接種費助成の対象を、これまでの小学6年生から中学3年生まで拡大し、特に、高校受験を控える中学3年生については、1回3千円を限度として助成しました。

市民憲章

わたくしたちの赤穂市は、播磨灘と千種川の清流にはぐくまれ、古い歴史と伝統をもつ、義士発祥のまちです。

このまちを愛するわたくしたちは、誇りと責任をもち、自然と調和のある豊かで希望にみちたふるさとづくりをめざし、ここに市民憲章を定めます。

1. 自然と歴史を大切に、美しいまちをきぎます。
1. 教養を高め、文化の向上につとめます。
1. 健康で働き、明るい家庭をつくります。
1. 互いに助けあい、愛の輪をひろげます。
1. きまりを守り、秩序ある生活をおくります。